



想いを届ける 年賀状作り



デイサービス
センター
青葉台
小規模多機能型
居宅介護

お正月の風物詩、年賀状。デイサービスセンター青葉台では、野菜の切れ端に絵の具をつけてはがきに押す、野菜スタンプで年賀状づくりをしました。



年賀状は、ご家族様や日頃お世話になっている大切な方々に送ります。元旦に届きますよ。



どの場所にスタンプを押すか考えながら一つひとつ作った作品。どれも個性あふれる素敵な年賀状です。



野菜は、レンコンやオクラ、ピーマン、小松菜の茎を使いました。断面によっては花にみえたりして面白いですね。



日常に彩りを添えるピアノの音色

デイサービスセンター青葉台には、地域の方からご寄付いただいたピアノがあります。設置してかれこれ20年近く、歌の時間やイベントなどで演奏され、ピアノの音色は、デイサービスの日常に彩りを添えてきました。かつて音楽の先生だったというご利用者のS様は、“忘れてしまった”と謙遜されつつも、楽譜をみながら今でも素敵な音色を奏でてくださいます。CDなどで音楽を流すのとは違って、生の音はやはり心を惹きつけますね。



気づいてあげたい「**嵌入便**(かんにゅうべん)」

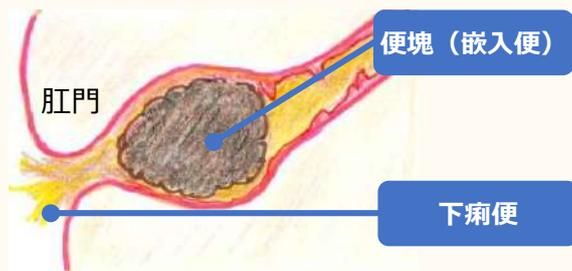
～身に沁みた ある医師の言葉～

グループホーム青葉台 施設長 山本 忠弘

「もう少し早く気づいてあげられれば…」と思ったことが何度もあります。それは、認知症の方の苦痛を伴い、様々な異変の原因となりうる「嵌入便」のことです。

嵌入便は、肛門付近に多量の便が出し切れずに溜まり、大きな塊になっている状態のことです。絶えず便意を感じながらも、塊を出すことができないため、痛みを訴えることのできない認知症の方にとっては、とてつもなく辛い状況です。

大腸に便が残っている便秘とは違うため、刺激性下剤を服用してしまうと、肛門近くの便は停滞したままで、下剤によって生じた下痢がすき間を伝って漏れ出してしまい、便失禁の状態になってしまいます。嵌入便は、直腸の内診を依頼すればすぐに判別できます。



嵌入便が確認できたら、便の塊を取り出す処置が必要です。

経験上、**嵌入便は生活環境や身体状況の変化（特に退院後）、薬が追加された際などによく起きます。**この3つが同時に重なれば、更に発生率が高くなります。

レビー小体型認知症のA様は、ご入居前からパーキンソン症状で転倒を繰り返し、かつ硬膜下血腫を患い、入院手術で回復されたものの、車椅子の生活を余儀なくされました。ある日、険しい顔で床を蹴飛ばし、テーブルを手で押しのけようとしていました。それは物凄い力で、車椅子が後方に傾く程です。独歩から車椅子の生活になり、運動量の低下から嵌入便となり、不穏な状態に陥っていたのです。

また、アルツハイマー型認知症のB様は、大腿骨頸部骨折のため車椅子の生活でした。ある日、身体が左右に傾き、姿勢を正してもすぐに倒れてしまわれるため、もしやと勘が働き、急いでトイレにお連れすると、肛門が開き、便塊の一部だけが顔を出している状態でした。活動量の減少に加え、B様には「あ～あ～」と不随意に言葉を繰り返す持続言語の症状があり、疲れ果てているご様子だったため、抗精神薬の服用が開始されていました。

排便がご入居者様の状態に影響を及ぼすことを再認識すると共に、25年前に当時勤務先にて開催した勉強会で、ある医師が仰った言葉を思い出します。

「とにかく便を出してあげてください」

その時はそんなに深く考えていませんでしたが、今となっては短く、当たり前の言葉の中にも、強いメッセージを感じずにはいられません。その言葉の背景には、認知症の方の苦痛を和らげ、心身の安寧を支える重要な意味が込められています。

三喜会のグループホーム・デイサービスセンターの日常の様子や取り組みを配信しています。よかったら、フォローお願いします！



facebook



Instagram



写真掲載についてはご本人様又はご家族様の了承を得ています。

医療法人社団 三喜会 グループホーム・デイサービスセンター青葉台



〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL. 045 (981) 6900 <グループホーム>

045 (982) 3200 <デイサービスセンター>



(GH)



(DS)